

学年：1年	単元名：5. どちらがながい
-------	----------------

1. 単元目標：(全5時間)

○長さの比較などの活動を通して、長さや測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるものの長さについて任意単位などにより比較する力を養うとともに、長さについての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。

考判表・具体的な操作を通して、長さの概念を作る。

- ・長さの比較、測定の方法を考える。

知・技・直接比較や間接比較、任意単位による測定などによって、長さを比べることができる。

- ・長さについての基礎的な意味や感覚を身につけ、比較や任意単位による測定の方法を理解する。

2. 指導内容

3. 指導のポイント

(長さ)

○具体的な操作を通して、長さの概念を作る。「長さ」とは?……………

- ・「長さ」に関する言葉の理解

高さ・深さ・たて・よこ・まわりの長さ・太さ など

長い 短い……これは、相対的な言葉であることをおさえる。

- ・子どもが自分なりの表現ができる。(言葉で、動作で)

○直接比較から間接比較へ。そして、任意単位による間接測定へ。

- ・「比較する」場合、「ほぼ同じ量」というのが前提になる。

「見てもわからない」または、「見てもわかりにくい」量を比較する。

- ・直接比較から間接比較へ移行するとき、すぐに任意単位による間接測定へ行ってしまいう傾向にあるので注意が必要。

直接比較：端をそろえる。まっすぐはかる。(ブラックボックスの活用)

間接比較：テープ等で長さを測り取る。

テープと測るものの端をそろえて、ピンとはって測り取る。

- ・任意単位による間接測定のよさを理解することが大切。

端をそろえなくても比べられる。

ブロックや「めもり」のいくつ分あるかを数える。

どちらが「いくつ分長い。」という言い方ができる。

- ・直接比較、間接比較→「どちらが長い」

- ・任意単位による間接測定→「どちらがどれだけ長い」

○測り方については、ていねいに指導する。

- ・端をそろえる。(直接比較)

- ・任意単位の大きさ(長さ)

→測定するものによって適当に単位を決めることのできる子どもを育てる。

任意単位は、測るものより短い。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○長さとは何かを知って、長さ比べをしよう。(P26/27/28)

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>(導入) 何をしているのか話し合わせる。</p> <p>1. 問題把握</p> <p>T:そうです。今日から長さの勉強をします。「長さとは何か。」と「ながさくらべ」をします。</p> <p>T:では、まず最初「長さ」とは何ですか?説明しましょう。</p> <p>C:知ってるけど説明できない。何 cm とか</p> <p>T:では、手でやってみると、どうなりますか。→C:(動作化)</p> <p>T:では、これは(手をいっぱい広げる。)→C:長い</p> <p>T:では、これは?(手を小さくする。)→C:短い</p> <p>T:では、これは?(手の幅は、中ぐらい。)→C:中ぐらい、わからん</p> <p>T:では、これよりは?(手をいっぱい広げる。)→短い</p> <p>T:では、これよりは?(手を小さくする。)→C:長い</p> <p>T:そうですね。長さは、手であらわすと、こうです。(動作化) そして、長いとか短い、何かにくらべて長い短いといいます。</p> <p>T:長さについてわかりましたね。</p>	<p>・長さの概念をつくる。</p>
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>では、次に長さ比べをします。</p> <div data-bbox="303 1064 718 1366" style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">① ②</p> </div> <p>T:どちらが長いでしょう。→C:わからん</p> <p>T:どうすればいいですか?→C:はしをあわす。上をそろえる。</p> <p>T:では、やってみます。これでどうですか?→C:②だ。</p> <p>T:本当にそうかなあ?(①を引っ張る。)→C:長くなった。せこい。</p> <p>T:実は、箱の中は、こんな風になっていました。(中を見せる。)→C:そういうことか。</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:わかりましたか。長さ比べをするときに、大切なことが2つ見つかりました。何でしょう。→C:はしをそろえる。まっすぐにのばす。</p> <p>T:そうですね。では、まとめます。(板書→ノート)</p> <p>○長さとは、(絵)</p> <p>○長さをくらべるとき ①はしをそろえる ②まっすぐにする</p> <p>T:では、P28①を見ましょう。どちらがながいですか。→C:あ・え</p> <p>T:P28②は?→C:たて</p> <p>T:どうして「たて」だとわかるのですか。→C:折っているからわかる。</p> <p>T:ケースは?→C:わからない。</p> <p>T:次の時間は、折ったり、動かしたりできないものの長さ比べをします。</p>	<p>・長さの測り方。</p>

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○長さとは何かを知って、長さ比べをしよう。（P26/27/28）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>（導入）何をしているのか話し合わせる。</p> <p>1. 問題把握 T:そうです。今日から長さの勉強をします。「長さとは何か。」と「ながさくらべ」をします。 T:では、まず最初「長さ」とは何ですか？説明しましょう。 C:知ってるけど説明できない。何 cm とか T:では、手でやってみると、どうなりますか。→C:（動作化） T:では、これは(手をいっぱい広げる。)→C:長い T:では、これは？(手を小さくする。)→C:短い T:では、これは？(手の幅は、中ぐらい。)→C:中ぐらい、わからん T:では、これよりは？(手をいっぱい広げる。)→短い T:では、これよりは？(手を小さくする。)→C:長い T:そうですね。長さは、手であらわすと、こうです。（動作化） そして、長いとか短い、何かにくらべて長い短いといいます。 T:長さについてわかりましたね。</p>	<p>・長さの概念をつくる。</p>
<p>2. 自力解決・学びあい では、次に長さ比べをします。（鉛筆とタコ糸を渡す。同じ長さ） T:ペアで相談してどちらが長いかわらべよう。 T:どちらが長いでしょう。→C:鉛筆・タコ糸・同じ</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり T:どうやって比べたのでしょうか。 C:はしをそろえる。まっすぐにのばす。 T:そうですね。では、まとめます。（板書→ノート） ○長さとは、（絵） ○長さをくらべるとき ①はしをそろえる ②まっすぐにする T:では、P28①を見ましょう。どちらがながいですか。→C:あ・え T:P28②は？→C:たて T:どうして「たて」だとわかるのですか。→C:折っているからわかる。 T:ケースは？→C:わからない。 T:次の時間は、折ったり、動かしたりできないものの長さ比べをします。</p>	<p>・長さのくらべ方。</p>

※正解はどれかを見つけるのではない。比べ方を理解させるのである。

第2時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○動かさないものの長さ比べをしよう。（P28/29）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:今日は、動かさないものの長さ比べをします。 どうしたらいいでしょう。ここにテープがあります。 どう使ったらいいでしょう。→C:長さを写し取ったらいい。 T:どうするの?→C:(みんなの前でやってみる。) T:そうしたらいいですね。では、いろいろな長さを写し取って、 黒板に貼っていきましょう。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい ○2人1組。テープをわたし、これより長いものはやめるように指示する。 ○長さに関する言葉もとらえさせていく。 ・はば、たかさ、ふかさ、たて、よこ など ○黒板に貼っていく。 T:みんないろいろはかれましたね。 一番長いのは? 一番短いのは?・・・ T:どれくらいながいの?→C:これくらい。 T:次の時間は、どれくらい長いかを考えます。</p>	<p>・1mのテープを渡す。 ・1mより長いものは、測らせない。 ・1組2種くらい。 ※このテープを残しておくとか次に活用できる。</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり T:では、今日のまとめです。 テープを使うと動かさないものでも長さ比べができる。 ということです。 T:次は、「どれくらい」ということを考えます。</p>	

※テープにどこを測ったか書いておく。そして、次時のために残しておく。
 名前は、「どこのなに?」→「すいそうの深さ」

第3・4時

学習のめあて（作業・知る・考える）
〇いくつか分で長さをはかろう。（P30/31）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T:今日は、こんなものを使って、長さをはかります。 ※クリップ、数え棒、鉛筆、ブロックなどを示す。</p> <p>T:使い方は、わかりますか？たとえば鉛筆はどう使いますか？</p> <p>C:（みんなの前でやってみる。）</p> <p>T:なるほど。では、みんなは、どれをつかいますか。</p> <p>C:クリップ・数え棒・ブロック・・・・・・・・</p> <p>T:ちょっとまってください。みんなが、ばらばらのものを使ったらどうでしょう。→C:こまる。</p> <p>T:何が困るのですか。→C:同じものではからないと比べられない。</p> <p>T:ああ、そういうことですね。では、どれを使うか決めましょう。</p> <p>※数え棒ぐらいに決めさせたい。</p> <p>T:では、前の時間にはかったものをこんどは、数え棒ではかりましょう。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>〇2人1組数え棒2本（1本でもよい）</p> <p>〇黒板にかいていく。「数え棒〇本とちょっと」</p> <p>T:みんないろいろはかれましたね。</p> <p>一番長いのは？ 一番短いのは？・・・・</p> <p>T:これとこれは、どれくらいながいの？→C:数え棒〇本。</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:では、まとめます。</p> <p>数え棒ではかったら、どれくらい長いとか短いがわかる。 ということです。</p> <p>T:では、P31④をみましょう。どちらがいくつ分長いですか。</p> <p>C:〇のほうが、1両分長い。</p> <p>T:そういうことですね。</p> <p>T:では、P31⑤をしましょう。→答え合わせ</p> <p>※ますのいくつぶんをはかればいいことに気付かせる。</p> <p>T:毎日の生活の中では、いつも数え棒がありません。だから、指を使ったり、手を使ったり、腕を使ったり、歩幅を使ったりします。</p> <p>※使い方を示す。（P30）</p>	

第5時

学習のめあて（作業・知る・考える）
〇いろいろな長さを調べよう。

〇数え棒で、いろいろな長さをはからせる。

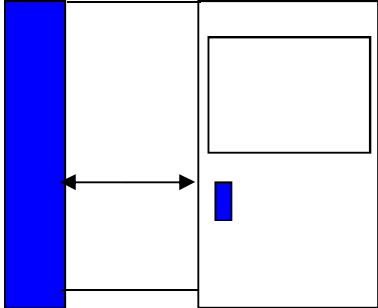
なまえ	かぞえぼうなん本

(第2時)を教科書から少し離れて、子どもたちの興味の持てそうな展開に変えてみた。)

第2時

学習のめあて(作業・知る・考える)

○動かさないものの長さを比べよう。(P28/29)

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:今日も長さの問題です。皆さんの机の問題です。机を廊下に出したいと思います。でも隙間は、これだけしかありません。出せるでしょうか。机を動かさないで調べる方法を考えましょう。 (隙間の幅は、机の縦は通るが、横は通らない幅)</p>  <p>C:通る。通らない。わからない。 T:いろいろ出ましたが、ここにこんな紐があります。これを使って調べられませんか。隣の人とよく考えて使いましょう。→C(相談する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2人1組
<p>2. 自力解決 C:机の縦または、横を測り取って隙間に持って行ってくらべる。または、その逆。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 机間指導・個別指導
<p>3. 学びあい T:では発表してもらいます。→C:通る。 通らない。 T:なぜ通るグループと通らないグループができるのでしょうか。 C:縦は、通るけど、横は通らない。 C:縦の方が短い。 そんなん見たらわかる。 T:そうですね。縦の方が短いということは、どこで分かりますか。 ※子どもが発表できれば、発表させる。 T:こうやればいいのですね。 ※紐を使って、机の縦の方が短いことを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 間接比較の方法を説明。 • 間接比較の方法を説明
<p>4. まとめ T:今日は、紐をつかって新しい比べ方を勉強しました。ひもは、(絵で板書→ノート) ①測るものの端とひもの端をそろえる。 ②ひもをぴんとはる。 ③はかるもののもう一方の端とひものもう一方の端をそろえる。</p>	
<p>5. ふりかえり T:いろいろな長さを紐で測って比べましょう。 ※測り方に問題がある場合は、それを全体に広げるように、問いかけていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2人1組 • 記録するよりたくさん測らせたい。